

第1部

ひとみ座

おとめぶんらく

乙女文楽上演会

第2部

女性が語るトークサロン vol.12

乙女文楽と生きる女性たち

「乙女文楽」を上演すると共にその暮らしぶりについて語ります。

人形劇団ひとみ座の女性の演者が50年にわたり、どのように男性中心の古典芸能の世界で道を拓き継承してきたのか。子育てをしながらの仕事と私生活の調和などについて、実体験を語ります。

参加費
無料

12月12日(土) 13:30～15:10
(13:00開場)

【会場】川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）1階ホール

【出演】ひとみ座乙女文楽

【参加費】無料

【定員】200名

【対象】川崎市内在住・在勤・在学でテーマに関心のある方
(おおむね小学校4年生以上)

【保育】あり（先着6名）1才～就学前 保育料：350円/1人

※保育締切：12/7(日)までに要予約

※保育持物：飲み物、おむつ、おやつ、ハンドタオル、ビニール袋、着替え（全てに要記名）



親子で本物に触れる
体験をしませんか？



10/28(水) AM9時～受付開始 電話・ホームページにて受付。詳細は裏面をご覧ください。

主催：公益財団法人 現代人形劇センター・川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

上演演目



©伊東恭介

ににんさんばそう 二人三番叟

「三番叟」は元来、五穀豊穡を祈る意味をもつものですが、転じて、多くはお祝いのときや開幕に際して演じられるものとなりました。文楽のみならず、能、歌舞伎、神楽など、日本の伝統芸能の中で、演じられ、重視される儀礼曲です。

乙女文楽では、二人で演じます。荘重な中にも華やかさのある演目です。



©熊谷香織

けいせいあわのなると じゅんれいうたのだん 傾城阿波の鳴門 順礼歌の段

阿波の国の家臣、十郎兵衛は主家のために娘お鶴を残して、妻のお弓と共に国を出る。その仮住まいに巡礼となって親を探すお鶴が現れ、お弓は娘と分かりながら、身に危険が迫っている为名乗ることもできず娘を返してしまう。

親を慕って旅をする幼い子どもと、我が子と知りつつ名乗れない母の切ない気持ちを描いた名場面。その普遍性が、時を超えて人々の心をとらえ、文楽のみならず全国各地の人形芝居で繰り返し上演される人気演目です。

トークサロンゲスト

むらかみ よしこ

村上 良子さん

1952年人形劇団ひとみ座入団。以来、現代人形劇の主役級の遣い手として、舞台や「ひょっこりひょうたん島」等、テレビで活躍。また、台湾で伝統人形芝居「布袋劇」を国宝級の演者、故李天祿に師事するなど人形芝居の真髄を追求。いっぽう1967年より乙女文楽を桐竹智恵子師匠に師事し、ひとみ座乙女文楽の代表をつとめる。現在は若手の指導にあたる。

きまた

木俣 かおりさん

1998年人形劇団ひとみ座入団。2000年よりひとみ座乙女文楽に参加、演目「二人三番叟」にて初舞台。乙女文楽では、幼い子供のいる母親役から、霊狐の役まで様々な役をこなす。座の中心的な人形遣いとして活躍中。現代人形劇では、アットホームな小規模の公演から客席が1000人を超える大劇場での公演など多数出演。

おがわ

小川 ちひろさん

東京都出身。多摩美術大学ではテキスタイル(染織)を専攻。卒業後、ひとみ座研究所を経て2003年、人形劇団ひとみ座に入団。デフパペットシアター・ひとみに所属、全国ツアーに参加。乙女文楽初舞台は2015年、演目「二人三番叟」にて初舞台。現在、ひとみ座の現代人形劇では人形、舞台、衣装の美術を一手に担う、中心的なデザイナーとして活躍。またテレビでの操演者としても活動している。

申込・問合せ・会場

川崎市男女共同参画センター (愛称: すくらむ21)

☎213-0001

川崎市高津区溝口 2-20-1

電話: 044-813-0808 FAX: 044-813-0864

URL: <https://www.scrum21.or.jp/>

すくらむ21

検索

